

人工池の生態調査

総合科学系 14期14班

動機

僕たち14班は先輩の課題研究を見て、野鳥園の存在を知った。人の立ち入らない状態で放置されているため、自然の環境が保たれていると考えた。



野鳥園



そして野鳥園に興味を持ち、調べてみようと思った。

目的・方法

野鳥園に実際に立ち入ってフィールドワークを行い、生態系の調査を行う。
13班が行っている水質調査と統合して、どのように生態系に影響するか考察する。

調査

野鳥園に行き、生物の観察と採取を行った。
【採取された生物の例】

赤とんぼ



クモの一種



ヤゴ



カニの一種



これらの生物は普通にみられる生物でした。

調査結果 1

僕たちはオオキンカメムシを捕獲しました。



オオキンカメムシは暑いところにしか生息していないといわれています。

昔の六甲アイランドには生息していないと報告されており、今回捕獲したということは、六甲アイランドの気温が上昇傾向にあるのではと考察しました。

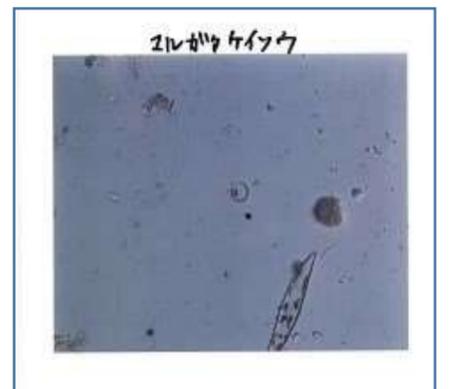
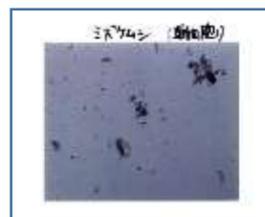


調査結果 2

水中の微生物を採集し、顕微鏡を用いて生態を調べる。

水中生物

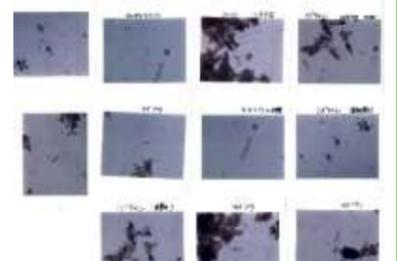
マルガタケイソウ
ヤゴ
オタマジャクシ
ゲンゴロウ



ケイソウとは・・・

世界中の海や川に生息しており、しばしば大量発生して、赤潮を引き起こしたりします。

今回、採集したケイソウは、マルガタケイソウで、海に生息しているケイソウである。このことから、人工池は、非常に海水に近い状態であると言える。



これらの生物は顕微鏡で観察された微生物で、特に特殊な微生物は確認されませんでした。

感想

旧野鳥園に行く機会があまり取れず、残念ながら研究材料をたくさん集めることが出来ませんでした。

自然の研究は大切なので、次の後輩に引き継いでより良い研究内容を作って欲しいです。